

《短報》

山口県下関市六連島におけるナギサミズカメムシの採集報告

松田真紀子

豊田ホタルの里ミュージアム・サポーター会員, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-30

はじめに

ナギサミズカメムシ *Nagisavelia hikarui* Watanabe, Nakajima et Hayashi, 2023 は 2023 年に新属・新種として記載された種で、ウミミズカメムシ *Speovelia maritima* Esaki, 1929 に酷似しているが、複眼が退化していること、頭部および口吻が非常に長いこと、触角が短く棘を欠くなどの特徴により区別される (Watanabe *et al.*, 2023)。これまでのところ島根県、香川県、福岡県から発見されているが (Watanabe *et al.*, 2023)、今回筆者が過去に採集し、豊田ホタルの里ミュージアムに保管していた標本の中に本種を確認することができたので報告する。

採集記録

下関市六連島, 2016-X-14, 1 ex.

※松田 (2018) でウミミズカメムシとして記録した 2 個体の内の一個体が本種であった。

生息環境

確認地である六連島北側の海岸は、背丈程ある大きな巨礫と、拳大から人頭大のレキが積み重なるレキ浜となっており、陸側には海岸林が接している (図 1)。



図1. 生息環境

海岸林そばの水の染み出し近くにあった石を起こした際、石裏からウミミズカメムシを見つけた。すぐ近くのやや海側に積み重なった人頭大の大きさの石を起こしたところ湿った石裏から小さな一個体を追加採集した。採集時は 2 個体ともウミミズカメムシと思っていたが、標本を見返したところやや海側で得た小さな個体がナギサミズカメムシであった (図 2)。本種とウミミズカメムシはごく近い場所から得られたが、ウミミズカメムシを採集した場所が波浪時以外は水没する場所ではなかったのに対し、ナギサミズカメムシを採集した場所はより海側であり満潮時には水没または波飛沫を受ける場所と思われ、同所的にナギサミズが多く見られた。しかし、ウミミズカメムシを潮間帯で採集したこともあったため、本種を得た環境とウミミズカメムシを得られる環境の違いは採集時に感じられなかった。



図2. ナギサミズカメムシ生態写真

引用文献

松田真紀子 (2018) 海浜で観察された数種類の節足動物の捕食行動. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (11): 193-197.

Watanabe K., Nakajima J., Hayashi M (2023) *Nagisavelia hikarui*, a new genus and species of Mesoveliinae (Hemiptera: heteroptera: Mesovelia) inhabiting shingle beaches in Japan. *Zootaxa*, **5353**(5): 468-478.